

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 095	提案機関名 公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会
要望問題名 アワビ筋萎縮ウイルスとビブリオ等の細菌類に対する防疫対策	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 アワビ種苗生産時において、5月から6月にかけてアワビ筋萎縮ウイルスとビブリオ等の細菌類によって種苗の大量斃死が起こっている。アワビ筋萎縮症は飼育水からウイルスを除去するため、紫外線殺菌装置を設置する必要があるが、施設整備事業計画が延期になっていることから、施設整備の際に対応する希望をもっている。しかし、5月から6月の水温上昇期(18～22℃)帯において細菌類の感染によっても大量斃死が生じており、この防疫対策も重要と考えている。 このことから、アワビ種苗と細菌数の関係、バチルス等の生物防御の可能性などを検討して頂きたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	水産技術センター	担当部所	栽培推進部 種苗生産担当
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 水産動物保健対策推進事業		
対応の内容等 アワビの筋萎縮症については、これまで通り貴協会の飼育担当者と情報を共有しながら、魚病診断をベースに研究を進めて参ります。特にこの取り組みの中で、東京大学と共同で貴協会のアワビを対象に研究に取り組んでおり、ウイルス量の季節変化や効果的な消毒方法を明らかにしていきます。 一方、ビブリオ等の細菌性疾病については、現在、バチルス菌による防御について貴協会の飼育担当者とともに取り組んでいる投与用法の検討などを進め、より効果的な用法を明らかにいたします。また、アワビの魚病診断の都度、細菌の分離率やアワビの筋萎縮症ウイルスの検出率が明らかになっていますので、今後、貴協会の飼育担当者と協力して死亡状況と細菌の分離率やウイルスの検出率との関係についても調査を進めて参ります。 また、同大学がアワビから分離された細菌の調査を進めており、その細菌の季節変化などが明らかになれば、細菌性疾病の対応策を講じる上で重要な情報が入手できるものと考えております。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			